

第 9 期市民活動推進委員会 答申骨子（案）

1 はじめに

(1) 市民活動と協働を取り巻く背景

感染症、自然災害、SNS の普及など

(2) 第 9 期市民活動推進委員会への諮問

「世代に関係なく地域課題に自ら取り組む地域社会の確立に資する市民活動及び協働の推進について」
現状、諮問事項の補足など

2 市民活動と協働の現状

(1) 本市の市民活動と協働の現状とあるべき姿（第 2 回、第 4 回）

活動内容・日時により運営や参加者の世代も左右される、40 代～60 代・もしくは高齢者が多い
市民活動は幅広く、世代間もあまり関係ない

理想は全世代を巻き込みたい。価値観や達成感の共有できればどんな世代も OK

(2) 市民活動と協働の認識と期待（第 3 回）

市民が楽しんで活動することが大切

市民が楽しんでいる姿を広く世間（世界）に伝えてほしい

3 市民活動の参加者や活動範囲を広げる意義と抱えている課題

(1) 市民活動の参加者や活動範囲を広げる意義（第 3 回、第 4 回）

参加者が運営側にある程度スライドしていかないと団体としては維持できない

どのような活動であるにしろ、持続していくためには新しい人が入ってこないといけない

(2) 抱えている課題（第 3 回、第 4 回）

若い世代・新しい人が入ってこない

忙しい人が増え、市民活動に時間を割くことが難しい社会になっている

4 市民活動の参加者や活動範囲を広げるための具体的な取り組み

(1) 市民活動を幅広い世代に広げることや市民活動の新規参加者を増やしていくために（第 4 回）

活動をいかに知ってもらうかの広報

全てを丸投げするのではなく、みんなで併走する

(2) どのような協働をしていくか（第 3 回）

活動の立ち上げ、展開、定着 各段階に合わせたサポート、人・金・物・情報 etc.のメニュー
かたい「広報」ではなく、多世代にアピールできる広報

5 終わりに